

令和2年度第2回北海道科学技術審議会議事録

日時：令和2年11月16日(月) 15:00～16:30

場所：第二水産ビル 4階 4F 会議室

出席者：

(委員) 井上委員、金子委員、佐々木委員、鈴木委員、土合委員、中村委員、西井委員、
西川委員、吉成委員

(事務局) 山岡経済部長、山中局長、黒須課長

(山中局長)

定刻となりましたので、ただ今から、令和2年度第2回北海道科学技術審議会を開催いたします。私は本日の審議会の司会・進行を担当する科学技術担当局長の山中でございます。委員の皆様には、大変ご多忙の中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、本日、井上委員、金子委員、西川委員、吉成委員4名の方につきましては、Webにてご参加いただいております。どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは早速でございますけれども、審議会の開会にあたりまして、経済部長山岡よりご挨拶をお願いします。

(山岡部長)

経済部長の山岡です。本日は、大変お忙しいところ、ご出席をいただきまして、感謝申し上げます。また、日頃より、西井会長はじめ、委員の皆様には、本道の科学技術振興に対しまして、格別のご支援、ご協力をいただいていることに、お礼を申し上げます。

さて、本道では、連日新たなコロナ感染件数が200件を超える状態が続くなど、大変厳しい状況が続いてございます。私どもとしても、すすきの地区で飲食業の皆様には時短をお願いしていて、そのおかげで人通りが、飲みに行くお客様が、大変減るというようなことで、当然、接触機会を減らすという意味では、効果があったとしても、経済の面では非常に事業者の皆様が苦しむ現状が目前にあります。今後、終息を見極めながら新しい消費喚起対策なども検討する必要がある一方で、感染リスクの低減と社会経済活動の両立が大変に難しい課題であるということを、改めて実感していて、もっと、取り組んでいかなければならない状態がございます。

一方で、道内では新型コロナウイルスに対応した研究や事業化の動きとして、いろいろなものが出てございます。大学が唾液のPCR検査の精度を証明した研究結果を発表されたり、大学発ベンチャーがAIや画像解析などを活用しながら、店内の混雑状況や顔認識、マスクの着用の有無を識別するシステムを開発しています。やはり今後の感染症対策の中で、必要なものとしての非常に有効な技術というものがやっぱりあるんだなということも改めて感じているところでございます。店舗やホテルへの導入ということも今後期待されるのかなど。道といたしましても、感染予防となる新北海道スタイルというものの実践を広めていくとともに、道内の産業がいろいろな環境変化に対応して、持続的な成長を図ることができるよう、施策をいろんな形で展開していかなければならないんだと考えてございます。

今年度2回目となる本日の審議会では、前回の審議会でも諮問をさせていただいた北海道科学技術賞及び奨励賞の選考について、ご答申をお願いすることになります。委員の皆様には、幅広い分野にわたる多くの候補者の審査につきまして、時間を割いていただいたことに感謝申し上げます。

また、地域懇談会につきましては、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けまして、書面での開催としたところですが、開催結果について報告をいたします。委員の皆様には、専門のお立場からご助言をお願いしたいと思っております。限られた時間ではありますが、皆様におかれましては、本道の経済の活性化、科学技術の振興に向けて、忌憚のないご提言、ご意見をいただければ幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

(山中局長)

本日の出席状況について報告させていただきます。本日は荒川委員、内島委員、瀬尾委員、田柳議員、長谷山委員、吉田委員がご欠席をされておりますが、科学技術振興条例で定めております、2分の1以上の委員の出席という当審議会の開催要件を満たしておりますことを報告いたします。

また、当審議会は原則公開としておりますけれども、本日の議事のうち、北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞の受賞候補者の選考にかかる議事につきましては、個人情報等に関わる内容を含んでおりますことから、非公開とさせていただきます。会議時間は1時間半程度を予定しております。よろしくお願いいたします。それではこれ以降の議事の進行は西井会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【議題1】

【議題1】北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞候補者の選考については、個人情報に関連するため、この議題に係る発言、質疑を含め全て非公表とします。

【議題2】

(西井会長)

はい。それでは議題の2番目、令和2年度科学技術振興に関する地域懇談会開催結果について、事務局から説明をお願いいたします。

(黒須課長)

それでは事務局から説明させていただきます。資料2-1をご覧ください。科学技術振興に関する地域懇談会ですが、道内6地域におきまして、産学官金等の関係者による意見交換を行い、情報や地域のニーズを共有し、参加機関等における今後の取組の推進や競争的資金の獲得などに活用し、地域での科学技術振興の取組を促進することを目的に毎年実施しています。

座長を務めていただいております、6地域の委員の皆様には、テーマ選定や懇談会の取りまとめ方法などについてご意見、ご助言を賜り、改めて御礼申し上げます。

例年ですと、各座長からそれぞれの地域の開催状況を紹介していただくのですが、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けまして、書面開催となりましたので、事務局から説明いたします。

初めに、函館地域の資料を用いまして資料の構成についてご説明いたします。左上段に今年度のテーマを記載しており、各地域とも二つ設定しております。次に議題の1、2、3、それぞれについて、関係機関の皆様からいただいたご意見や情報の中から主なものを記載しております。次に、右中段以降の四角で困ってる部分につきましては、事務局で整理いたしましたテーマに、関連する情報として取組状況や支援制度の活用状況を記載しております。そして、今後の取組の考え方(案)として、今回の懇談会の意見を踏まえて、事務局として整理した取組方向を記載しております。

説明では、時間の関係上、テーマごとに議題1での意見、右側の関連する情報、今後の取組の考え方を中心に触れて参ります。

初めに函館地域です。

テーマの1つ目は、AI、IoT等の活用です。主な意見としましては、ターゲットを絞り込んで、成功事例の情報共有することが重要。国がスマート水産業の取組をしているが、水産でのICT導入は浸透していないなどの意見をいただいています。このテーマに関連する情報ですが、はこだて未来大発のベンチャー企業、未来シェアが、オンデマンドAI自動配車システムの地域実装に向けた取組を推進しています。また、スマート漁業の関連では、はこだて未来大学が、定置網の魚群探知機データをAIで分析し、魚種別ごとの漁獲量を予測するシステムの実証に取り組んでいます。次に、今後の取組方向ですが、自動配車システムの関連では、道から支援制度の情報提供を行うほか、はこだて未来大学を中心に、地域実装へ向けての取組を推進することとしています。スマート漁業の関連では、

関係大学等が、引き続き、ニーズ把握に努めるとともに、構成機関が大学の研究成果をPRし、地域への普及を図ることとしています。

テーマの2つ目は、「地域産業を支える AI 等の先端技術に精通した人材の育成・確保」です。寄せられた意見としては、「センシング、ビッグデータ解析の入門的な内容でオンライン研修を準備中」、「AI・IT に精通した IT コーディネータの派遣による支援」などの意見をいただいています。

今後の取組方向としては、引き続き、はこだて未来大学や道立工業技術センターが中心となって人材育成に取り組むこととしています。

続きまして、室蘭・苫小牧地域です。

1つ目のテーマは、「ものづくり分野における生産の効率化・高度化」です。意見としては、「AI、ロボットなどの導入費、体制が課題」、「生産性向上の取組に対し、企業の積極性が低い」などの意見をいただいています。関連する情報として、道では、道総研や関係機関と連携し、AI・IoT、ロボット技術や生産管理・品質管理に関する研修会やセミナーなどを行っています。

次に、今後の取組方向としては、道、道総研、関係機関が、引き続き、普及啓発、相談対応、支援策への橋渡しに取り組むこととしています。

2つ目のテーマは、「航空宇宙産業分野への参入」です。意見としては、「地元企業と発注側企業のマッチングが必要」、「航空宇宙産業用部材の製造は生産や検査体制の高度化が求められることから、参入を目標とした取組は航空宇宙産業以外の参入にもつながる」などの意見をいただいています。関連する情報としては、室蘭工業大学が、民間企業等との共同研究を実施しているほか、室蘭市や道でも参入支援の取組を推進しています。

今後の取組方向としては、大学等は、引き続き、関連する研究や企業との連携に取り組み、関連支援機関は、地域企業の参入支援に取り組むこととしています。

次に旭川地域です。

1つ目のテーマは、「医工連携」です。意見としては、「産学でニーズとシーズについて商談、意見交換を実施していく」などの意見をいただいています。関連する情報としては、旭川医大では、移植用臓器灌流保存装置の事業化に向けて、R2年度イノベーション創出研究支援事業に採択され、取組を進めています。今後の取組方向としては、懇談会構成機関が協力し、研究機関等ともものづくり系企業との意見交換に取り組むこととしています。

2つ目のテーマは、「農林産品の高付加価値化」です。意見としては、「1～2 次産業へ高付加価値を与える企業への支援」、「実需・加工・流通との連携が重要」などの意見をいただいています。関連する情報としては、道総研や旭川食品産業支援センターによる技術相談、商品開発支援などが行われています。

今後の取組方向としては、道は、企業に対し関連施策の活用を促すとともに、道総研や支援機関は、地域ニーズを把握し、支援策への橋渡しや研究テーマの設定を図っていくこととしています。

続きまして、北見・網走地域です。

1つ目のテーマは、「食や農林水産業における科学技術の活用」です。意見としては、「農林水産業における生産効率を向上させるためには既存技術の採用だけではなく、新たな技術・機械の導入が不可避」などの意見をいただいています。関連する情報としては、国のスマート農業実証プロジェクトを活用して、通信不感地帯において、衛星情報・センサ情報活用や、自動操舵適用の実証試験などが行われています。今後の取組方向としては、関係機関が、引き続き、一次産業現場での省力化に関する研究などに取り組むこととしています。

2つ目のテーマは、「地域の産学官連携の強化による国資金等の獲得」です。意見としては、「企業が盛り上がるころに重点をおき、技術を開発・保有する側と利潤を生み出す側をつなぐ仕組みの強化」などの意見をいただいています。関連する情報としては、今年度、内閣府の先進的な衛星リモートセンシングデータ利用モデル実証プロジェクトに採択され、衛星データを活用して最適なサケ(稚魚)放流時期予測技術の実証に取り組んでいます。

今後の取組方向としては、北見工大や関係機関が連携して、地域課題の解決に向けて取組を進めていくこととしています。

次に、十勝地域です。

1つ目のテーマは、「農業における省力化・生産性向上」です。意見としては、「スマート農業の取組は活発化しており、国から支援が得られることはありがたい」、「施設・機械の整備は、省力化・生産性の貢献度や費用対効果の検証が必要」などの意見をいただいています。関連する情報としては、道事業を活用して、とかち財団等が、国際的な通信規格である ISOBUS 対応農作業機の開発に取り組んでいます。今後の取組方向としては、帯広畜産大学など十勝地域の関係機関が地域課題の解決に向けて取組を進めていくこととしています。

2つ目のテーマは、「スマート水産業」でしたが、地域からは「宇宙関連産業」に関する意見が多かったところです。関連する情報としては、「大樹町を中心とする十勝関係者が、超小型人工衛星打上げ用ロケット「ZERO」の打上げに使用する射場の整備・運営を検討するため、「北海道航空宇宙企画(株)」を設立し、取組を進めています。

今後の取組方向としては、道は、産学官連携体制である「北海道宇宙関連ビジネス創出連携会議」の活動を通じて、地域企業と協力し、関連ビジネスの創出を促すこととしています。

最後に、釧路地域です。

1つ目のテーマは、「一次産業における省力化・生産性向上」です。意見としては、「酪農業では、小規模農家の廃業に伴う農地等の大規模化が図られ、設備投資による省力化・生産性向上は確実に進んでいる」、「一方、後継者不在の農家や新規就業農家は大型の設備投資が困難で、省力化、生産性向上は進んでいないので、支援策の拡充が必要」などの意見をいただきました。関連する情報としては、国の事業を活用して、「酪農現場において、ドローンや搾乳ロボットなどのデータ管理システムの実証」や、「つなぎ牛舎用の搾乳ロボットの実証調査」などが行われています。今後の取組方向としては、研究機関などが中心となり、地域の課題に対応した研究テーマの設定や他地域の先進技術の導入事例の情報収集・提供を行っていくこととしています。

2つ目のテーマは、「地域の産学官連携の強化による国資金等の獲得」です。意見としては、「地域の産学官連携強化による国資金等の獲得のため、IoT の視点に結び付けられるアイデアが欲しい」などの意見をいただきました。

今後の取組方向としては、支援機関などが中心になり、他地域の先行事例の情報を収集し、一次産業の課題解決などに向けた研究テーマの設定に取り組むこととしています。

6地域の地域懇談会の開催結果の説明については、以上です。

次に、資料2-2をご覧ください。この資料は、地域懇談会で出された意見、情報などに対する道としてのフォローアップの考え方について、改めて整理したものです。

これまで、ご意見などの内容に応じて、「情報提供」、「関係機関などとの橋渡し」、「懇談会での意見を参考に具体的な施策などの検討」などに取り組んできたところですが、「3」に記載しておりますとおり、地域で具体的なテーマを検討する際の係わりについても、整理いたしました。地域での検討を進める際には、当課も参画するなどして、地域での取組の充実化に協力してまいりたいと考えております。

このように、地域懇談会につきましては、道にとりましても、道内各地の科学技術振興に関する最新の情報共有や、取組方向を整理する重要な機会となっておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

(西井会長)

ありがとうございました。ただ今のご報告につきましてご質問等がございましたら、お願いします。それでは、委員の方々からご発言いただきたいと思います。

(佐々木委員)

今回は、書面での懇談会ということだったんですが、今年度は、もうこれから先、残りの期間でもWeb開催等の予定もないということでもよろしかったですか。

(黒須課長)

はい。今年度につきましては、事務局の方では、改めての開催というのは予定しておりませんでした。

(佐々木委員)

多分、今年の前半はWeb会議も余り浸透していなかったですし、企業さん等もほとんどやられていなかったもので、多分、書面での意見ということだったかと思うんですけども、今見ていただいたように、どこでも大体Web会議ができるようになったので、もし可能であれば、Web会議等で皆さんのご意見を集められたらどうかというふうにちょっと思いました。今後の課題のところはやはりちょっと私からすると、各地域の企業側の方たちのご参加が余りないのかなというふうに見え、企業の顔が見えないところがちょっと気になるなというふうに思ってます、研究機関だけではなくて、地元の中小企業の方たちが、こういった課題に対してどんなふう考えているのかなというのをちょっと記載していただけるようなところがあると、科学技術の振興とその企業への浸透というところが見えてくるのかなと思いましたが、ちょっとそういったこともご検討いただけないかなというふうに思いました。

(黒須課長)

ありがとうございます。いただいたご意見を踏まえまして、懇談会の成果を生かし、効果的に次につなげていくやり方について、内部でも検討させていただきたいと思えます。

(西井会長)

その他いかがでしょう。

(土合委員)

各懇談会の中で、補助制度の拡充を求めるとご意見が出てたかと思えます。一方で、道財政の厳しい状況を鑑みますと、なかなかそうもいかないのかなと想像ができるんですけども、現状はこのようなご要望に対しては、道庁としては、今どのような状況と、どのような方向というふうにご考えておられるのか、もし教えていただける部分があれば、お願いしたいと思います。

(黒須課長)

ありがとうございます。地域懇談会を開催いたしますと、やはり道に対する期待というものが毎回寄せられておまして、我々も、できるだけ応えたいと思っているところですけども、そのためにですね、実は支援制度について、うまく浸透していなかったりする場合については、改めて情報提供して制度を活用していただきたいと思っております。今後に向けて、改めて施策が必要であるというふうにご受けとめられるものにつきましては、できるだけ内部の議論にのせて、検討していきたいと思っております。ただ、実際問題として、ご期待に全部応えられているかということについては、反省するところが多いかと思っております。今後頑張っていきたいと思えます。

(土合委員)

ありがとうございました。

(西井会長)

その他いかがでしょうか。よろしいですか。これは情報提供ですけども、「まちひとしごと」という事業がありますよね、文科省のまちひとしごと担当に、もともと北海道大学に出向されていた行松審議官が担当官になられたということで、北海道からの提案を期待しているというふうにご仰りましたので、なかなか補助事業なので難しかったんですが、3年ほど前にトライしました。その他にもいろいろ地域のための予算があると思えますので、ここに国の予算を取りに行くというようなことが書かれてましたけれども、窓口としては非常に積極的に北海道を応援してくれる方が、文科省におられるということで、一つのチャンスかなと思えます。

(黒須課長)

ありがとうございます。そういう情報も活かしながら、次の取組につなげていければと思います。

(西井会長)

その他よろしいですか。それでは各地域の座長の委員の方々にご発言をお願いしたいと思います。まず吉成委員、Webからお願いします。

(吉成委員)

それでは説明をさせていただきます。

室蘭・苫小牧地域はテーマを2つ設定されています。1つ目はものづくり分野における生産の効率化・高度化についてです。実は、昨年から継続しているテーマになっています。意見にありましたとおり、AI・ロボットの導入費・コストが問題、生産性向上の取組に対して積極性が低いなどですね。これは、昨年度もあがっていたことで、中小企業等は現場での客観的な判断が難しいという課題が、引き続きあるということを示しています。これはなかなか解決しない課題ですが、先週、室蘭で「産業と社会に大きな変革をもたらすIT技術の可能性」というテーマで、フロンティア技術勉強会を開催しました。その内容ですが、従来からの生産現場の改善をしっかりと行って、標準化や生産性の向上を図る際にIT関連を十分活用していくという提案になっています。仕組み構築とか生産管理について、社員で開発可能なアプリを利用することによって、できることからIT改善をやっていくという話でした。世の中では、デジタル化、ソリューションという言葉が頻繁に見かけるようになりましたけれども、いきなりロボットを導入するのが適する場合と、もう少し手前の改善活動の一環として取り組む場合など様々なケースがあるので、それに対する支援が考えられます。道、道総研、地域の関係者が引き続き連携しながら、普及啓発活動、相談対応をしていければと思っています。また、資料の左下に、苫小牧地域において経産省の事業による「超微細四次元X線CT解析装置」の導入と、産学官連携による「新素材開発支援マルチプラットフォーム」の構築があります。これによって、次世代の自動車部品の関連企業、電子機械部品の関連企業、航空宇宙の関連企業の支援強化が期待できるので、本学も参加させていただき、こういった環境を利用しながら取り組んでいきたいと考えております。

2つ目のテーマ、航空宇宙産業分野への参入についてです。航空宇宙産業への参入を目標として取り組んでいるところが認証を取得したとかは、企業のアピールにつながります。他の地域の事例でも明らかで、航空宇宙産業へ取り組むと様々な波及効果があり競争力の強化が期待できるので、今後も支援していきたいと思います。また、本学の航空宇宙機システムセンターが令和元年に、超小型ロケットの事業化のための低コストターボポンプ開発に関して、インターステラテクノロジズと共同研究を開始しています。今年の3月には大樹町と包括連携を締結して、10月に大樹町にサテライトオフィスをオープン。これはオール北海道の話となりますが、大樹町を中心とした十勝地域におけるスペースポート構想と3kmの滑走路の実現に向けて様々な取組をしていきたいと本学としても考えているところです。

今回は、コロナの影響で書面開催となりましたが、書面によって時間があり細かな意見が出てきたというメリットと、対面できないというデメリットがあったと感じました。

(西井会長)

ありがとうございました。本件について何かご質問はありますか。続きまして、旭川地域の西川委員からよろしくお願いします。

(西川委員)

旭川医大の西川と申します。よろしくお願いします。今年は書面開催ということで、道庁の方に来ていただいて打ち合わせをしたわけですが、先ほどのご説明にあつたとおり、テーマは医工連携と農林産品の高付加価値化となっています。

最初の医工連携に関しては、遠隔診断とドローンによる薬物輸送を組み合わせた実証実験を実施していて、今後これを発展させたいと考えています。また、道総研でエネルギーを使わなくても良いような建築を開発しています。旭川信金を中心に産学のニーズとシーズについての商談、意見交換を

行っています。

2つ目のテーマとして、林産試験場を中心として道産木材を付加価値の高い建築部材や家具などとしています。

共通点として、地域懇談会では、ニーズやシーズの視点が旭川の近郊や道内に限定しがちですが、道外を含めた広い視野でやっていくと良いというようなご意見があったようです。

議題の3の道への要望として、研究助成を増やしていかなくちゃいけないということで、ノーステック財団の「若手研究人材育成事業」などがあります。これについては、高専を巻き込んでいけないか、ただし、実際、若手の研究者が少なく、助成を受けるのに苦慮されています。若手だけでなく、中堅やシニアにも研究助成が当たるような仕組みがあれば良いのではないかと思います。それから、工業関係では、何が行われているかの情報は入って来ますが、製薬等の企業の技術を旭川地域で共有できないか、ネットワークをつくらうということに協力しています。旭川地域のひとつの特徴として、今年も巡回特許庁が旭川で開催されました。旭川では、デザイン経営というのが、かなりブランドの先端的なところをいっているの、こういう方向で今後旭川地域の科学技術振興を発展させていければと思っています。

(西井会長)

ありがとうございました。何かご意見等ありますでしょうか。道総研の省エネ建築とは具体的にどういものでしょうか。

(西川委員)

道総研では、新しいエネルギーをできるだけ使わないでも済むような建築を研究されています。

(西井会長)

鈴木委員から、補足説明していただけますか。

(鈴木委員)

道総研の鈴木です。ご紹介ありがとうございます。2年前まで建築研究本部の本部長をやっていたものですから、ちょっと説明させていただきます。リサーチパークにある道総研建築研究本部、通称「北総研」と呼んでますが、日本では公的研究機関としては、つくばにある建築研究所とうちの2つしかありません。そういうこともあって、北海道のみならず、日本の積雪寒冷地の建築物をどう省エネルギー化するかという視点で研究を進めています。特に、北海道の場合、暖房エネルギーが、建物全体のエネルギーの約半分を占めるため、その部分をどう省エネルギー化がこの数十年の主たる研究テーマになっており、それらの成果が国の建築物省エネ基準に反映されたりしています。またこれらの成果を例えば北海道教育厅と連携しながら、各市町村の学校の建築に展開しており、そのショーケースになったのが建築研究本部庁舎でして、これが建ったのが平成16年ですが、国土交通大臣賞もいただきました。積雪寒冷地の建築としては、閉鎖的な建築というのを開放的な建築にすることによって、開かれた空間にした、それがきっかけとなり学校建築のほか全道のような公共建築にも展開していきました。建築というのは壁の中に隠れてしまう技術と、それからあとからも見える技術がありますけど、後者、つまり空間を飾る技術というのが、説明を余り要さずに広く展開する非常に有効な手段になります。そういう意味で省エネ技術をベースに空間を変え、視覚的な部分も一緒に提案することが大切と感じています。それが先ほど西川先生にご紹介頂いたような評価につながっているのかと思います。

(西井会長)

ありがとうございました。その他よろしいでしょうか。引き続きまして、十勝地域の井上委員の方からお願いいたします。

(井上委員)

まず、急遽 zoom での会議に対応いただきまして、事務局の方ありがとうございます。十勝地域ですけれども、テーマを2つ設けさせていただきました。1つ目は、引き続きのテーマとなりますが、農業における省力化・生産性向上ということで、これは釧路地域でも一次産業での省力化として取り上げ

られておりますけれども、十勝地域は、やはり担い手不足が特に酪農・畜産では進んでいますので、非常に重要な課題だと、地域で様々な大学を含めて課題として挙げられています。

一方で、十勝地域から釧路に至る長い海岸線のところでは水産業もあるので、スマート水産業について議論してみるのもいいと思い、提案してみたんですけども、地域懇談会のメンバーに水産関係者が余りいなかったせいもあるのか、スマート技術のメリットが見いだせなかったという意見でした。こちらについては、函館地域や北見・網走地域では既に取り組んでいると思うので、今後、十勝地域の水産関係の方にどなたか入っていただいて、もう少し議論してもいいのではないかと考えております。テーマ1の取組については、特段新規のことはないのですが、ISOBUS 対応農作業機とか、センシングを用いた製品であるとか色々取り組んでいます。

やはり、十勝地域だけの技術力では、対応しきれていないのですが、非常に期待感が高まっているテーマとしては、宇宙産業に関する取組です。食ということで、宇宙食、特に日本食をおいしい宇宙食にする。宇宙食のニーズは限られているので防災で使えるような防災食にできないかということで取り組んでいます。室蘭・苫小牧地域からのご協力をいただいて、全道的に宇宙産業をどうしていくかについてが、取り組むべき課題と思っています。是非、他地域でも、様々な研究機関が協力し、いろいろな技術力を結集して北海道における宇宙産業の立ち上げをやっていくべきです。今後、宇宙空間の地球に近いところは、民間利用していく、それから、民間人の宇宙旅行という話が最近も出てきています。こちらで今考えているのは、小型のセンシング用衛星を打ち上げて、水産業・農業のスマート化につなげていく取組で、それぞれの地域で行っていくスマート農業、スマート水産業等の基盤となる技術、あるいは取組だと思っているのでやっていきたい。

要望としては、他の地域と余り変わりませんが、特徴的なのが、法制度です。特に、通信環境を利用した先端技術が多いのですが、その通信環境の整備が、農村地帯が主ですので、まだ行き届いていない。これは、通信三大キャリアなんかの協力も必要なかと思いますが、例えば、5G 環境を北海道で構築していかないとなかなか難しい。また、詳細は良く分かりませんが、法制度なんかでも、社会実装を妨げるようなものがある。あるいは、決まっていないことがあるという課題があるようなので、技術開発と同時にインフラ整備と法制度上の整備が必要と認識しています。

(西井会長)

ありがとうございました。ただ今のご説明に何かご質問はあるでしょうか。これは、室蘭地域と連携されているということですね。

(井上委員)

はい。技術的な面では、室工大におんぶに抱っこと言いますか、とても活発にやられています。

(西井会長)

他はよろしいでしょうか。それでは、最後のご説明になりますが、釧路地域の中村委員の方からお願いいたします。

(中村委員)

釧路公立大の中村です。釧路地域についてご説明をさせていただきます。釧路の地域懇談会のテーマは2つです。一次産業における省力化・生産性向上と、2つ目が地域の産学官連携強化による国資金等の獲得です。

最初の一次産業の省力化・生産性向上についてですが、農業、特に酪農に関しては、かなり取組が個別に進んでいて、特に、ここに記載されているように大規模化のところは進んでいます。ただ一方で、後継者不在のところに記載されていますが、二極化が進んでいて大規模なところはいいんだけど、小規模なところはどうするのかという論点が一つあります。

もう1つ、釧路はもともと水産なのですが、水産業とか水産加工関連も省力化やその他の取組を個別に行っている企業はたくさんあるんですけども、そこが連携をする形には今のところなくて、知ってる人は知っているというような形になっています。その関係、情報発信について、お互いに連携できるような仕組みづくりが必要なかなと考えているところです。

2つ目の産学官連携の強化による国資金等の獲得ですが、特に大学、企業等と地域による連携体で国資金等の獲得を行い、次世代型一次産業を構築するべき、といった意見も出ているんですけども、これは何かというと、釧路の場合、釧路ITクラスター推進協会とかが、札幌でやっているNo Mapsというイベントを釧路でも開催して、地域のビジネスコンテストとか、科学技術の紹介とか、個別の取組は結構頑張っているところはあるんですが、十勝地域のとかち財団のように地域で連携する形で、テーマを決めて、大きなお金を取りに行くという仕組みには、まだ今のところはなっていないんですね。ちょっと大きな話ですが、特に次世代型一次産業を目指さないだろうか、という意見がありました。特に釧路の場合は、地域と暮らし、コロナの問題に加えて、日本製紙釧路工場が紙生産から撤退する話が出ているところです。釧路は、今は事実上、紙生産がリーディング産業で最大の外貨を獲得する産業なものですから、すぐには難しいかもしれませんが、次世代型産業を育成するというような形で、大きな連携体とかでできないだろうかというのがテーマになっています。それで、道への要望というところですが、あとは地域でやっていくことなのですが、管内自治体の取りまとめに期待するといった議論が出ているんですが、お互いの共通のプラットフォームを作る時に、それをコーディネートする形で、いろいろとサポート等をお願いできないだろうかというのがございます。

(西井会長)

ありがとうございました。ご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(西井会長)

その他よろしいでしょうか。佐々木委員からご意見がありました。意見交換するのはやっぱり情報源として非常に重要だと思いますし、Webを使った議論をやっていただくのも大事ですし、またコロナの影響がなくなりましたら、活発に議論されたら、非常に良いのかなと思います。ただ、情報共有する場がなかなかこの審議会しかないんですね。Web上で見れるぐらいですかね。あとは産学連携をやっている人達にとってすごく重要だと思うので、この機会を大切にされたらいいのかなと思います。

その他よろしいでしょうか。何かありますか。

(佐々木委員)

今お話があったように、各地域でこんな取組をやっていると、新たなシーズの投入の話もありますし、具体的にここに出ている課題を、こういうシーズで解決できるかなという提案もできると思うので、是非、先ほど会長が仰られたように、進めていただくとありがたいなと思います。

(西井会長)

金子委員の方から何かございますでしょうか。

(金子委員)

金子でございます。色々と地域の状況が良く分かるご説明をいただきありがとうございます。今日、他の委員の方々からもお話が出ていたと思いますが、いろんな外部資金の獲得が課題になっておられると思います。これから来年度予算について年末に内示が出ると、来年の1月、2月から新しく認められた予算の公募が始まると思います。いろんな制度がありますので積極的にご活用いただきたいと思っています。どういった制度が新しくできて公募を開始するとかの情報を入手していただければと思います。そういった外部資金の情報を検索するサイトをご紹介します。特にJSTが積極的に宣伝するというものではないのですが、民間企業のジー・サーチ(G-Search)がやられている、コラボリーというサイトがございます。そこで、キーワードとか公募中とか、いろんな検索すると、検索結果がすぐ出てきて、今どういう制度があるのか検索できるようになっています。登録は無料です。便利なツールとしてご活用いただければと思っております。

(西井会長)

ありがとうございました。その他何かございますでしょうか。

本日予定しておりました議題は以上でございますけれども、何か最後にありましたら、ご意見をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、以上をもって本日の審議会は終了し、事務局に進行をお返しします。

(山岡部長)

本日は、まずご答申をいただきましてありがとうございます。そして委員の皆様には、地域における多様な取組のご紹介をいただき、また道へのご要望などもいただきまして、熱心にご議論をいただきました。大変ありがとうございます。

また、西井会長におかれましては、円滑な議事進行に改めて御礼申し上げます。今日出てきた議論としては、やっぱり地域の動きですとか、産学官連携の動きについての見える化、もう少し、外から今こういうものが動いている、様々な動きがあるということを、いろんな方に分かるようにしていくことが大事な論点だと、一つの示唆をいただいたと思っております。そういった面では、私どもも、審議会の議論が良く見えるように、良く動きが見えるようにということも一つ、宿題とさせていただきます。また、こういう地域での動きがさらに多様に回るようにということも宿題としていただいたと思っておりますので、改めて今後のことについても考えてみたいと思います。いずれにいたしましても、こういう形でご議論いただきまして大変ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。以上でございます。

(山中局長)

それではこれもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。皆様どうもありがとうございました。